

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	デイホーム土屋たいわ			
○保護者評価実施期間	2026年12月1日 ～ 2026年12月30日			
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	9	(回答者数)	9
○従業者評価実施期間	2026年3月1日 ～ 2026年3月13日			
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	5	(回答者数)	3
○事業者向け自己評価表作成日	2026年3月15日			

○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	«環境・体制整備» ・共生型で、一日の定員が20名であるが、クールダウンや横に慣れる静養室等を用意し、メインホールの他、活用できるお部屋が広く用意できている。	・個別性を尊重し、それぞれが存分に個性を発揮できるような部屋の配置を心掛けている。	・今後も利用される児童の特性に合わせた部屋の配置を行っていききたい。また、外出の機会を設け、散歩や公園へのお出かけを取り入れて、活動空間を広げていきたい。
2	«非常時等の対応» ・安全計画を作成し、訓練を実施している。 ・個別避難計画の記載、防災LINEへの招待などを通じて、家族との連携を図っている。	・BCPの策定はもちろんのこと、地震、水害、火災の避難訓練を実施している。	・引き続き避難訓練を強化していく。
3	«保護者への説明等» ・ご家族の意見やこどもの行動・発言の状況によって安心、安全且つ楽しく利用できる提供するため必要時面談や電話又は訪問し意見、意向確認を行っている。	・6か月に1度、面談、または訪問をし、意向確認を行っている。	・今後も6か月に1度以上の、面談、または訪問をし、意向確認を行い、より個別性を尊重した個別支援計画を作成し、支援していく。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	・個々によって行動観察等共有出来ているところもあるが、統一した対応が出来ていないところがある。PDAサイクルに特定の職員しか関わっていない。	・統一した対応が出来ていないかもしれない、という部分については、情報発信の方法、ミーティング時間の確保など課題がある。	・チャットワークというシステムを使って情報共有したり、スタッフミーティングの時間に情報共有している。 ・支援の時間の振り返りを業務終了後、情報共有する時間にしていく。
2	・「移行支援」及び「地域支援・地域連携」について、課題があると思われる。次年度に向けて工夫が必要。 ・「地域支援・地域連携」については、地域の方々との理解を深めていながら広いつながり構築していく。	・地域とのつながりについては、黒川郡自立協議会、各地区区長さん、民生委員、地域包括支援センター、支援学校と連携できており、また、地域支援では、地域に貢献できる事業を行っているが、介護保険が母体の為、どうしても高齢者向け、または障害サービスが中心となってしまう。児童福祉での連携、また、地域支援について考えていく必要がある。	高齢者のみならず、障害、児童福祉の分野で地域支援、地域連携できるように次年度は工夫していく必要がある。
3	・支援終了後は、送迎などの関係で、その日のうちの支援の振り返りが難しい。	・共生型の為、介護保険の通所介護、障害福祉サービスの生活介護、児童福祉の放課後等デイサービスの利用があり、朝から夕までフルに送迎が稼働しているため、スタッフがそろう時間がない。	・チャットワークというシステムを使って情報共有したり、スタッフミーティングの時間に情報共有している。 ・業務終了後、支援の時間の振り返りを行い、情報共有する時間にあてていく。